

# リーディング・ストラテジーの活性化と長文におけるその効果

石原 果奈

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 修士課程

キーワード : 英語, 長文読解, リーディング・ストラテジー

## 1. 研究目的

本研究の目的は、リーディング・ストラテジーと長文読解の関連性について明らかにすることである。これまでリーディング・ストラテジーと長文読解の関連性についての研究は、足立望・大石晴美(2017)、鈴木規巳洋・森永弘司(2009)、山下純一・横山吉樹(2004)と多くの学者によって研究されてきた。しかし、これらの研究ではリーディング・ストラテジーの使用度が発達したにもかかわらず、長文読解の向上が見られなかった。この原因として共通していることは、たとえ多くのストラテジーを使用したり読解力上位群のストラテジーを用いたりしても、自分でそれらのストラテジーを使こなして読解に結び付けなければ長文読解の向上には至らないということだ。よって、これまで行われてきた学術論文を読みこみ、各研究の欠点や弱点から質的尺度に着目したストラテジーの指導法や研究方法を計画し、大学生の英語学習者(JFL)英語学習者に実験を行うことでリーディング・ストラテジーと読解の関連性について明らかにする。さらに、リーディング・ストラテジー指導を行うことによって、ストラテジーの使用度および長文理解度が向上するかを明らかにする。その際、被験者の長文読解に対するモチベーション、リーディング能力、読解スピード、ストラテジー指導歴を変数として分析する。

## 2. 研究実施内容

主にストラテジーの指導法や実験方法を計画した。被験者は主に大学 2 年生を対象とし、大学センター入試を引用した長文内容を用いる。実験で用いるリーディング・ストラテジーは次の 5 つである。1. 意味の分からない単語は、それがどのような意味か前後の関係から推測しようとする。2. 文中の代名詞は、何を指しているかを意識して読

み進めていく。3. 接続詞やつながりの言葉に注意して読み進めていく。4. 文章全体の大意をざっとつかんだ上で、次に細かく読む。5. 大切な内容の箇所に、下線を引いたり、印を付けたりをしながら読み進めていく。これらの 5 つのストラテジーは、先行研究の(竹内・池田; 2003)の一部を使用する。

本研究のストラテジーの定義は次のようにする。1. 意味の分からない単語は、それがどのような意味か前後の関係から推測しようとする、2. 文中の代名詞は、何を指しているかを意識して読み進めていく、3. 接続詞やつながりの言葉に注意して読み進めていくは変わらずそのままである。4. 文章全体の大意をざっとつかんだ上で、次に細かく読むは、それぞれのパラグラフのトピックをつかめていると定義する。5. 大切な内容の箇所に、下線を引いたり、印を付けたりをしながら読み進めていくは、本文で筆者が言いたいことが理解できていると定義する。

この 5 つのストラテジーに対応する設問を作成した。設問は、4 択問題とする。今までの先行研究で使用されていたテストの設問は、TOEIC や実用英語技能検定を引用したものであるため、実際に指導したリーディング・ストラテジーを使用していたのかが明らかではない。したがって、今回の実験に使用する設問は、指導するストラテジーを実際に使用することで解答できるような設問にする。設問を作成する過程においては、純粹にストラテジーの効果を見たいため、できるだけ個人の英語力が設問を解く以外に関係しないようにするために設問の問題文を日本語にしたり、分からない単語の意味を推測して解答する際の選択肢を日本語にしたりと工夫した。また、設問を作成する段階で、設問と実験に扱うストラテジーが正しく対応しているかを判断する際に私の主観になることを防ぐため、大学院の授業の中で多くの人から

アドバイスをいただき、よく議論し、何度も修正、改善を行った。例えば、1.意味の分からない単語は、それがどのような意味か前後の関係から推測しようとするというストラテジーを用いて解答する設問は次のようである。However, it can be (イ) a double-edged sword. That is, it has good points and bad points. の (イ) a double-edged sword に適する意味を 1) 2つの利益がある. 2) 長所も短所もある. 3) 危険である. 4) よく切ることができる. という 4 つの選択肢から解答を選ぶ。この場合、(イ) a double-edged sword の意味を予測する手掛かりとして“that is”がある。“That is”は「つまり」という意味を持ち、前の文とその後に来る文をイコールでつなげる役目を持っているため、(イ) a double-edged sword の意味は“that is”の後に来る文であることが分かる。よって、この答えは、2) 長所も短所もあるという答えになる。このようにそれぞれ 5 つのストラテジーに対応した設問を作成した。

実験手順においては、参考文献の足立望・大石晴美(2017)の方法を参考にしている。まずリーディング・ストラテジーの使用度や被験者の長文読解に対するモチベーション、ストラテジーの指導歴を尋ねるための事前アンケートを行い、意味の分からない単語を文脈から推測するストラテジーを使用するため、被験者が実験で用いる英単語を知っているかどうかを事前に確認するために、単語確認テストを行う。次に事前テストとして 20 分間で長文を読んで設問に解答し、解答し終わった時間を記入する。これは、読解スピードを知るためであり、事後テストでも同様に記入する。さらに、実験に用いる 5 つのリーディング・ストラテジーの指導を行う。その後、事後テストとして事前テストと同様に 20 分間で長文を読んで設問に解答し、最後に事前アンケートと同様の事後アンケートを行う。この実験で用いる事前・事後テストは異なるものである。

指導方法の流れとしては、最初に指導するストラテジーについての説明を行い、次に例題を用いながらストラテジーの使用方法を実演する。そして、練習問題を用いてストラテジーの練習を行う。ここで用いる教材は、先行研究で使用されてい

た“Making Connections①, ②”(Pakenham et.al, 2013; Cambridge 社)を引用したものをを用いる。

### 3. まとめと今後の課題

学術論文や書籍を読みこんでいくことによって、ストラテジーの指導方法や実験方法を計画することができた。また、大学院の授業を活用することによってストラテジーの指導方法や実験方法について熟考することができた。さらに、大妻女子大学の専攻内の学術論文発表会に出席したことにより、先生方からの助言をいただくことができた。したがって、今後は専攻内の学術論文発表会で先生方からいただいた多くの助言をストラテジーの指導法や実験方法に反映できるようもう一度それらを見直し、改善していきたい。また、実験に用いる事前・事後テストの 2 種類の長文の難易度が揃っているかリーダビリティを用いて確認したり、事前・事後テストのパイロットテストを行うことで 2 種類のテストの難易度が揃っているかを確認したりする必要がある。さらに、主な指導の流れや指導をする際に扱う教材は決まっているが、具体的な指導方法は決まっていないため、今後指導案を作成していきたい。

### 参考文献

- ・足立望・大石晴美(2017).「習熟度別英語リーディングストラテジー指導の効果」『学習開発学研究』, 10, 57-63.
- ・鈴木・森永(2010).「読解力とリーディング・ストラテジー活用度との相関性に関する一考察」『常葉学園大学外国語学部研究起用』, (26), 87-102.
- ・山下純一・横山吉樹(2004).「第二言語学習者が用いるリーディングストラテジーの発達についての考察」, 『HELES JOURNAL』, 4, 65-82.

### 4. この助成による発表論文等

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所大学院生研究助成 DB2902「リーディング・ストラテジーと読解の関連性」を受けて行ったものである。